

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成28年9月5日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 地球環境学舎

職 名・学 年 博士後期課程1年

氏 名 Ajay Kumar Mishra

助成の種類	平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成		
研究集会名	保全農業と持続的土地利用に関する国際会議 International Conference on Conservation Agriculture and Sustainable land use		
発表題目	Farmer's perspective on adaptation and up-scaling of conservation agriculture based management practices in Indo-Gangetic plains of India		
開催場所	ハンガリー ブダペスト		
渡航期間	平成28年05月30日 ～ 平成28年06月04日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	VISA申請料:34,440	
		学会参加登録費・資料作成費:88,560	
		宿泊費・日当:88,950	
		交通費:43,050	
航空券:95,000			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回の国際学会の参加にご支援いただきありがとうございます。とても感謝しております。この助成は私の研究のテーマである保全型農業に関する、知識と経験の向上に大いに役立ちました。今後も研究助成にご支援いただければありがたいです。		

## 環境保全型農業と持続可能な土地利用に関する国際会議／成果の概要

私はハンガリー国ブダペスト市にて 2016 年 5 月 31 日から 6 月 2 日に開催された環境保全型農業と持続可能な土地利用に関する国際会議に参加し、これまで行ってきた研究の成果報告を行った。

本会議は、環境保全型農業に関わる様々な取り組み（例えば、土壌学や地形学、農業生態学、収量と経済、気候変動、炭素循環、土地利用と植生の持続可能性評価、精密農業と有機農業など）を連動させ、気候変動下における持続可能な農業の進歩と実践を達成することを目的としている。10 人の基調講演者が世界中から招かれ、環境保全型農業に関する様々な視点に基づく研究報告を行った。

私は会議初日に、「インド・ガンジス平野における環境保全型農業への適応と拡大に関する農家の視点」という表題でポスター発表を行った。

会議 2 日目は、Transdanubium へのフィールドトリップが開催され、Szentgyörgyvár にある地理学研究所 HAS の実験サイトを訪問し、環境保全型農業の長期試験と、土壌侵食の軽減、定量化、シミュレーションのため最新の技術について学ぶ機会を得た。さらに、環境保全型農業に携わる先進的な農家と、土壌と作物の管理、経済的利点、環境的恩恵に関する課題について議論することができた。その後、気候変動下におけるさらなる進歩を視野にいたった栽培加工技術を学ぶために、ブドウ園を訪問した。

会議 3 日目には、再び基調講演者による講演が行われ、より良い環境保全型農業の構築を目指し、本会議で得られた成果を統合するための世界的なセッションが行われた。閉会式では、参加者に参加証明書が配布された。また若手科学者賞が発表され、その中で私はポスター賞を受賞することができた。最後に、Reading 大教授であり、FAO のアドバイザーであるアミールカッサムの謝意表明で本会議は幕を閉じた。

貴財団より国際研究集会発表助成（若手）を受け、このような貴重な会議へ参加することができたことに、心より御礼申し上げます。